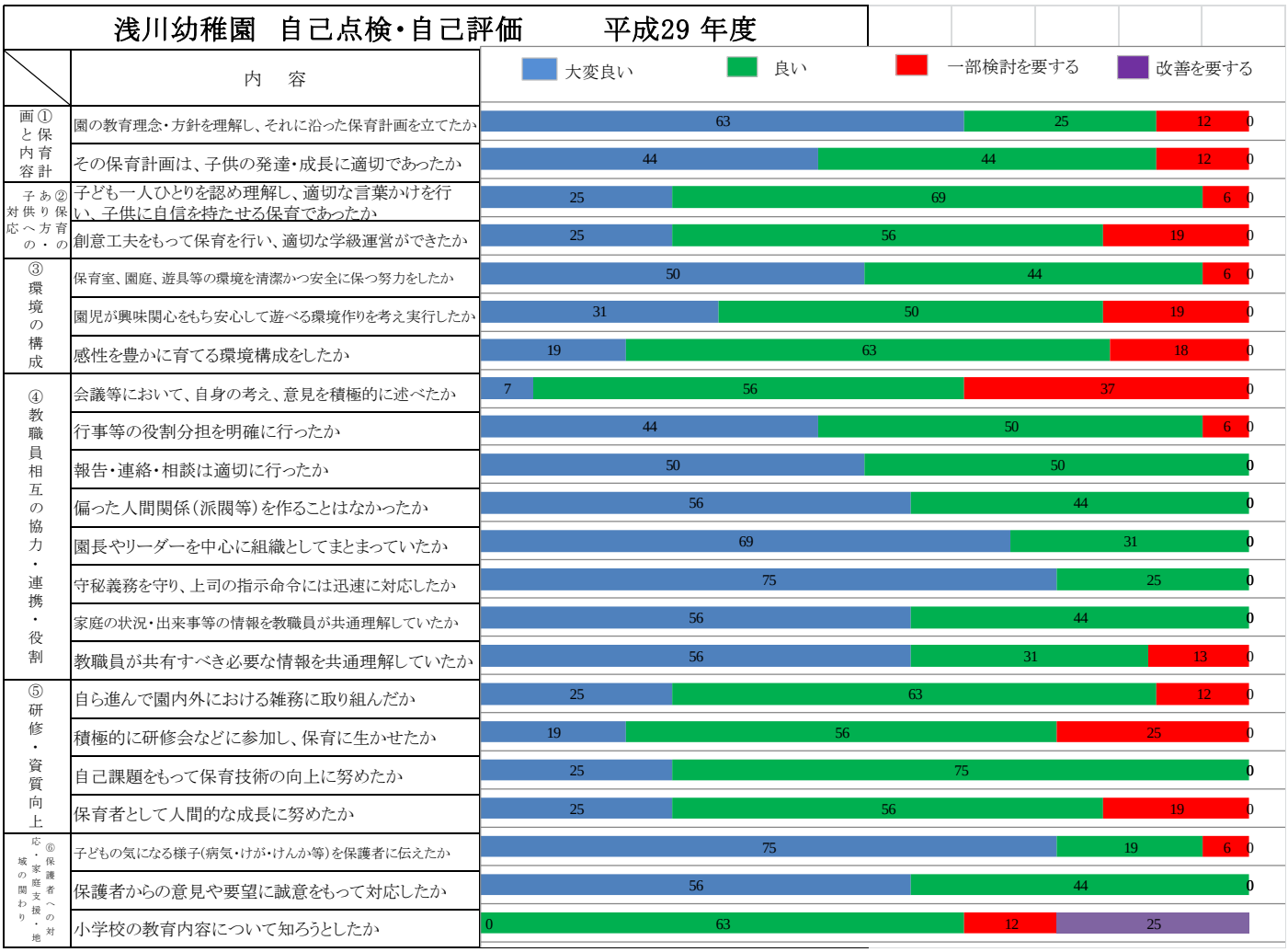
平成 29 年度　学校関係者評価

1.　教職員による自己点検評価

教職員が客観的に自らを振り返り保育内容の改善に資するために、本園の教育理念・教育方針のもと、その教育目標に沿った評価項目について自己点検・自己評価を実施した。自己点検評価の結果は下図の通りである。



次に、浅川幼稚園の保育について以下に総括する。

①　**集団作りについて・・・**当園では、保育者と子供の関係作りは勿論、子供同士の関係作りも重視し、子供主体の活動を取入れている。友達から褒められる事は、仲間に認められるという大きな喜びとなり、守られているという安心感となり、自信をもって伸び伸びと生活出来るばかりかチャレンジ精神も育っている。　活動において評価を取り入れているが、それは友達が頑張っていることを認め合う機会でもあり、共に成長できる場でもある。又、うまくいかない事に関しては、「こうするともっと良くなる」というプラスの発言を友達から聞けば、落ち込むことなく頑張ろうと前向きになれる。評価をするためには、友達を見ていないと出来ない。自分も見る、そして、見られる立場になることで、クラスの中での存在意識も確立されている。

①　**食育について・・・**給食室の主任栄養士と連携を取りながら食育活動を進めている。殊に「食べる」ことに問題を抱えている子供（主に年少児）に関しては、連携指導が功を奏しているよう

で、年長児になると殆どその問題が解消し、美味しい給食の時間を楽しく過ごしている。

② **強い体作りについて・・・**体育講師のアドバイスを受けながら運動遊びに取り組んでいる。運動が苦手な子供を作らないために、大きな目標だけでなく小さな目標を立てて「出来るようになった」喜びを味わいながら前進するように努めている。年長になって取り組む竹馬は「できるようになる」という技能面のみを目標とせず、友達と一緒に練習する心強さ、友達に教えられて出来る歓び、自分が教えたことで友達が出来る歓び、等により仲間意識や達成感を味合わせている。

③ **豊かな感性の育みについて・・・**ミニコンサートとして、一学期にフルートの中西久美氏とピアノの岡直美氏を迎えて演奏会を、二学期はギャルソンのサクソフォーン四重奏を、三学期は東京都響のメンバーによる演奏会を実施した。　又、食育の一環として料理教室を年中・長児を対象に年間 3~4 回実施、味噌汁や、納豆料理、白和え等を、包丁や擂鉢・摺木を用い、味噌を溶き入れる等を実施している。他にも味噌作りや梅干し作り、餅つき、田植え・稲刈り等季節の行事も取り入れて、伝統文化を知ると共に豊かな感性の育みに努めている。

2. 今後取り組むべき課題　・・・上記、自己点検評価の結果に基づき今後の課題を検討した。

	課題	具体的な取り組み方法
1	会議等において、積極的に発言できない教員がいる	＊発言しやすい雰囲気作りに努める ＊学年会議を増やし、少人数での話し合いを今後も取り入れる
2	小学校の教育内容を知る機会が少ない	＊幼小連携の研修会に参加した教員から研修内容を学び理解を深める ＊園児達がいずれは就学するという意識や興味・関心を持つよう努める
3	気になる子への対応	＊教職員全員で情報を共有し、その子へ関わっていく ＊研修会で学びを深めたり、専門機関の助言を仰ぐことに努める。 ＊子供達が偏見を抱いたり、その子を排除することの無いようにクラス運営を行う。

3.　学校関係者の評価

当園の取り組みに対して保護者より高い評価を頂いた。即ち、食育の取り組みがしっかり根付いている、季節ごとの行事が良い、運動遊びを沢山取り入れていて良い、劇作りを通して発言力や想像力が育っている、ミニコンサートで本物の音楽を聴けること、バザーで P と T の触れ合いが沢山出来た事、運動会で起用している高倉指導員の解説が良いこと等など、である。

園に対する要望や気になる点については、

① 課外教室の中に、リトミックや音楽教室を加えて欲しい。

② 卒園後に園を訪ねる機会が欲しい。その為、卒園生をバザーに誘うことや、アルバムの渡し日を卒園後にする等の工夫をして欲しい。

② 生活発表会後の褒美については、同一の物が何年も続き兄弟児はダブるので変えて欲しい。

③ 給食の試食会は誕生月の保護者を対象に行っているが、クラス毎の試食会に改められないか。

その他・・・足洗い用タライの水の取り換えを頻繁にすること、卒園式の写真や DVD の販売を希望すること、トイレットペーパーの使用についてどのように指導しているか、等の質疑を交わした。これらの要望等に対しては、園として前向きに検討することを約束した。

以上　　（文責　園長 福原洋子）